平成 28 年度 第 2 回石狩市男女共同参画推進委員会　議事録

日時　平成 29 年 2 月 9 日（木）18 時 00 分～19 時 40 分
場所　石狩市役所 3F 庁議室

議事次第

◇開会

◇委員長挨拶

◇議事

＜報告事項＞

① 平成 28 年度男女共同参画実施事業について

② 男女共同参画意識に関するアンケート結果について

③ 第 3 次石狩市男女共同参画計画成果指標進捗状況について

＜協議事項＞

① 次年度以降の取組について

◇その他

事務局より事務連絡

◇閉　会

出席者

委　員			職　員　（事務局）			
役　　職	氏　　名	出欠	所　　属	役職	氏　　名	出欠
委員長	阿部　包	○	環境市民部	部長	新岡　研一郎	○
副委員長	岡本　峰子	○	広聴・市民生活課	課長	田村　奈緒美	○
委　員	安部　紀江	×		主査	山本　健太	○
	西澤　理佳	○		主任	瀧坪　真里依	○
	伊藤　美由紀	○		主事	君野　彩花	×
	鎌田　加津枝	○				
	釣本　明雅	×				
	芳賀　武士	○				
	袴田　律子	○				
	新田　大志	○				
	沼田　弐朗	○				
	村上　譲司	○				

傍聴者　1 名

◇開会

【事務局（田村課長）】

定刻になりましたので、これより平成 28 年度第 2 回男女共同参画推進委員会を開催いたします。本日の欠席は、安部委員と釣本委員です。

まず初めに本日の予定と資料確認をさせていただきます。資料につきましては、

＜資料 1　　平成 28 年度男女共同参画実施事業一覧＞

＜資料 2　　男女共同参画意識に関するアンケート結果＞

＜資料 3　　第 3 次石狩市男女共同参画計画成果指標進捗状況＞

となっております。足りない物などございましたら、事務局までお申し付け下さい。

次に予定ですが、目途として 20 時 00 分に終了したいと考えておりますので、円滑なご審議よろしくお願い致します。それでは、開会にあたりまして阿部委員長よりご挨拶をお願いいたします。

◇委員長挨拶

【阿部委員長】

平成 28 年度 2 回目の会議となります。よろしくお願いいたします。

【事務局（田村課長）】

ありがとうございました。それでは阿部委員長にこの後の議事進行をお願いしたいと思います。

◇議事

【阿部委員長】

はじめに報告事項です。報告事項の①平成 28 年度男女共同参画実施事業について、事務局より説明をお願いします。

【事務局（山本主査）】

みなさんこんばんは。事務局の環境市民部広聴・市民生活課の山本です。よろしくお願いいたします。

それでは、報告事項の①平成 28 年度男女共同参画実施事業について説明いたします。資料 1 をご覧下さい。平成 28 年度に実施した事業の一覧となっておりますが、前回の委員会が 7 月 28 日でしたので、それ以降に実施した事業について説明いたします。

10 月 5 日から 7 日にかけて実施した「子育てメッセ in いしかり 2016 パネル展」について説明いたします。こちらにつきましては、子どもと保護者が一緒に男女共同参画意識を学ぶことが出来るきっかけとして、絵本や書籍を紹介しております。絵本については、一人ひとりの個性を尊重する事を考えるきっかけとなるようなもの、書籍については、共働き家庭におけるワーク・ライフ・バランスを考えるきっかけとなるような書籍を紹介しております。また、同時に市民図書館では介護や育児・家事等男女が共に考えていく内容の書籍を集めた男女共同参画特集コーナーを設置しました。

次に、10 月 30 日に実施した「男女共同参画ワークショップ」は重点施策に位置づけている、ワーク・ライフ・バランスをテーマに講演とグループワークを実施しております。講演では、企業が取り組むワーク・ライフ・バランス、講師自身の育児休業を取得した際の状況等について講演していただいております。ワークショップにつきましては、札幌市男女共同参画センターにご協力いただき、ライフヒストリーということで、グループに分かれて、ある架空の人物の人生を男女別に作り上げ、ワーク（仕事）とライフ（生活）をそれぞれ色分けしていくという作業を行っていただき、結果、男性はワ

ークが多く女性はライフが多くなり、潜在的にそういう意識があることをみなさんに認識していただきました。
つづきまして、11 月 22 日から 25 日では「女性に対する暴力をなくす運動パネル展」を開催しております。男女共同参画における暴力に関する市民意識調査結果、デート DV、面前 DV、パープルリボンプロジェクト、ストーカー行為、相談窓口について周知しております。後日、パネル展を見て相談に来られた方がいらっしゃいましたので、一定の効果がありました。また、パネル内容の説明などに鎌田委員が所属されている北海道家庭生活カウンセラークラブ石狩地区の方にご協力いただいております。
つづきまして、11 月 24 日に「女性の生き方という視点の講義」を藤女子大学で実施しております。講師に、札幌人権擁護委員連合会の八代委員をお招きして、すべての人が生命と自由を確保し、人間が人間らしく生きる権利である人権についてや性別によって差別されないこと、婚姻・配偶者・財産権・相続・住居の選定の自由などの女性に関する憲法についてと DV についての講義をしていただいております。
つづきまして、12 月 2 日から 16 日の期間で男女共同参画意識に関するアンケートを行っております。詳細につきましては、報告事項②で説明いたします。
その他の取り組みといたしまして、第 3 次計画の重点施策の一つ若年層への啓発として、固定的性別役割分担意識の解消を考えるきっかけとして男女共同参画推進リーフレットを市内小学校 5.6 年生に配布、デート DV についての正しい認識を学ぶきっかけとしてデート DV 防止リーフレットを市内中学校全学年に配布、デート DV 防止パンフレットを市内中学校 PTA 事務局、藤女子大学 1 年生、石狩南高校・翔陽高校 1 年生に配布いたしました。
それぞれ児童生徒への周知と共に、保護者や先生など周囲の大人の方にも一緒に考えてもらうきっかけづくりとして行っております。あわせて DV 相談窓口について、市内公共施設にポスター掲示と携帯用カードを備え付けております。
もう一つの重点施策のワーク・ライフ・バランスの推進として、ロールモデルの紹介を今後予定しております。仕事と家事育児を両立している女性、仕事と地域活動を両立している男性の 2 名の一日を紹介し、啓発して行きたいと考えております。

【阿部委員長】
ありがとうございました。議事に入る前にお願いがあります。議事録作成のために録音をしていますので、指名されてから発言していただきますようお願いします。また、なるべく大きな声でのご発言をお願いします。それでは、報告の内容についてご質問などがありましたらお受けします。

【袴田委員】
10 月 30 日の男女共同参画ワークショップについて質問させていただきます。私も何年か参加させていただいて、とてもいい事業だと思っているのですが、今回は仕事の関係で参加できず大変残念でした。参加された方の年齢層と男女の比率について教えていただければと思います。また、参加された方からの終わってからの意見などありましたらお聞きしたいと思います。

【事務局（山本主査）】
委員で何名か参加された方がいらっしゃいますので、終わってからの意見についてお聞きしたいと思いますがいかがでしょうか。

【阿部委員長】
参加された方が何名かいらっしゃると思うのですが、新田委員はどうですか。

【新田委員】
参加させていただき、雰囲気もよく、グループで一緒に考えていくということで、いろいろな年代の方と話をしていき、人の一生をとおして考えていくという題材の中で、男性は仕事に偏りがちだなとか、女性は生活に比重があったり、イベントとして結婚、出産があったりと、自分たちの経験をとおして、みなさんで合わせると、一般的にはまだまだそういった意識が根強いということを確認させていただきました。
講演も、育児休業を実際に取った方が講師でしたので、現実味があり、男性が育児休業を取るということが難しいということも感じましたが、今後は男性が育児休業を取るということが一般的になっていけばいいと思いました。非常にわかりやすく勉強になりました。

【阿部委員長】
ありがとうございました。補足的にご意見をいただける方はいますか。

【芳賀委員】
私も参加させていただきましたが、年齢層が幅広かったのですが、若い世代の男性が少なかったように思います。
ワークとライフに色分けしていると、男性は仕事に偏るのかと思っていましたが、意外と参加している男性も仕事だけではなく生活について考えているのだなという感想を持ちました。

【沼田委員】
私も参加させていただきましたが、性別や年代を問わず男性は仕事に関するキーワードが多く、女性が家庭に関するキーワードが多く出ていたと思います。私は普段から、男性は仕事、女性は家庭と意識していないと思っていたのですが、改めて、ワークショップという場で発言してみると、自然とそちらに偏ってしまっていたというのを感じました。これを機にもう少し、家の事をしていかなければいけないかなと思うところもありました。講師の方が育児休業を取られたということで、そういった環境はすごく大事だと思うのですが、やはりまだそれを理解する企業であったり、職場の同僚であったりというところから意識が変わっていかなければ、理想と現実はまだまだ離れているのかなという印象をすごく受けました。

【阿部委員長】
おそらく、こういった企画に参加される方々、特に男性は一般の方々より意識が高いだろうと思うのですが、それでもやはり仕事にウエイトがかかってしまうというのが実際のところなのでしょうね。

【事務局（山本主査）】
男女比についてですが、男性 10 人、女性 12 人ということでほぼ同じ割合になっております。年代については 30 代から 70 代まで幅広く参加していただいておりますが、60 代以上の方が 15 人という参加状況になっております。

【袴田委員】
毎年思っていることなのですが、若い世代の方にもっと参加していただければ、さらに活発になるのかなと思います。人生の先輩方から学ぶことがあると思いますので、そういった場はとても大事だと思います。多くの方に参加していただきたいと思いますので、募集や周知の仕方にもうひと工夫が必要なのではと思います。

【阿部委員長】
ありがとうございます。60 代以上の方が 15 人というのは結果的に偏ってしまいましたが、50 代までの方が参加するというのには、実際は仕事や生活で参加する余裕がないのかもしれませんね。せめて、60 代以上と以下で同じぐらいの割合であればいいのかなと思います。
そのほかの事業については何か意見などありませんか。

【岡本副委員長】
女性に対する暴力をなくす運動パネル展について、パネル展を見て相談に来た人がいるというのは成果として非常に大きいのではないかと思います。
昨日、福島で行われた震災被害女性の相談窓口の会議に出席したのですが、３年、４年前に配ったパンフレットなどを持っていて、何年かたってやっと相談に来ることができるという状況があって、今回、件数は少ないかもしれませんがすぐ相談がありました。今、このときに配られたリーフレットを握り締めているという潜在的な人がいるので、パネル展という機会を作っていくのは大事なことだと思います。

【阿部委員長】
こういった活動は、地道に継続していくことが大事なのだと思います。ありがとうございました。
女性の生き方という視点の講義に鎌田委員が参加されていますがどうでしょうか。

【鎌田委員】
講師は、女性のための相談窓口などもしている弁護士で、日本国憲法の人間が平等に生きるというところから入りまして、優しくわかりやすい内容でした。後半は DV についてお話されていて、DV というと女性が受けるものという先入観があるけれど、逆に女性が男性に DV をするという場合もあるので、自分が受けない、やらない、友達が DV を受けているのを見たら声をかけるということをお話されていて、私もとても勉強になりました。また、若い世代の女性が被害にあわないことも重要ですが、DV を知らないということは、そういった事をされた時に嫌だということも主張できないことになりますので、とてもわかりやすい講座でよかったと思います。

【阿部委員長】
憲法の話が、自分の生きるということとつながっているということや憲法が自分を守ってくれているとはほとんど考えていないと思いますので、そういった意味で生き方を考えさせてもらうというのは貴重な体験なのではないかと思います。
そのほか何かありませんか。
それでは、報告事項２の男女共同参画意識に関するアンケート結果について、事務局より説明をお願

いします。

【事務局（山本主査）】

それでは、報告事項２の男女共同参画意識に関するアンケート結果について資料２をご覧下さい。

本アンケートは、第３次計画成果指標の進捗状況と男女共同参画に関する市民意識を把握し意見等を今後の事業に活用していくことを目的とし実施しました。

対象は市内居住の20歳以上の男女1,000人を、地域別・年代別で無作為抽出しました。期間は12月2日から16日までの2週間で実施しております。

回収の状況ですが、件数は180件で18.0%の回収率となっております。前回会議で検討したとおり設問項目を少なくし、返信方法を封書ではなくハガキとして手間を省くなどの工夫をしましたが、前回平成26年度実施時の26.2%を下回る結果となりました。この点については次年度以降に更なる工夫が必要であると事務局として捉えております。

男女別の回収率は、男性は13.8%、女性は22.2%、また性的マイノリティの方に配慮し性別選択でその他を選択可能としましたが、その他と回答した方はいませんでした。

年齢別の回収率は、年齢が上がるにつれ上昇傾向にあり、20～29歳と30～39歳の若年層の回収率が極めて低い状況となりました。また、男性より女性の回収率が高くなっております。

地域別の回収率は、厚田区がすこし高くなっていますが、ほぼ同程度の割合となっております。

つづきまして、分析結果についてですが、問1「男女共同参画」という言葉の認識割合について、見たり聞いたりしたことが「ある」と回答した方の割合は、全体で55.0%、男性が63.8%で女性が49.5%と男性の方が高く、平成26年度調査との比較はほぼ同程度となりました。

男女、年代別の割合は、60～69歳を除く年代で男性の方が高い傾向となっております。また、男女ともに30～39歳の認識が著しく低い結果となりました。一般的に子育て世代である30～39歳の方への周知として、先ほど報告した子育てメッセのパネル展や児童生徒へのリーフレット配布などにより子どもと保護者が一緒に考えることができるような取り組みを今後も継続して実施することが大切だと考えております。

つづきまして、問2「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認識割合について、見たり聞いたりしたことが「ある」と回答した方の割合は、全体で37.8%、男性が49.3%で女性が30.6%と男性の方が高い結果となっております。平成26年度調査との比較では男性24.8%から49.8%と約2倍上昇し全体でも8.6%上昇しております。

男女別、年代別の割合は、女性より男性の方が高くなっております。女性が比較的年代間での認識の差が無いのに比べ、男性は若い年代ほど割合が高い結果となりました。ただし、問1同様30～39歳の認識が低い結果となっております。こちらについては、30代、40代の同世代の方のロールモデルの周知やパネル展での啓発などを今後も継続して実施していきたいと考えております。

つづきまして、問3「DVにあたる行為」の認識割合について、ある一定の行為が「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した方の割合は、全ての項目で平成26年度調査より約10%上昇しました。また、全ての項目で半数以上の方が認識していて、特に1～4の身体的な暴力についてはほぼ7割以上の方が認識している結果となりました。項目別では、「4　いやがっているのに性的な行為を強要する」と「6　交友関係や電話を細かく監視する」という行為を暴力と認識する割合が男性の方が高く、その他の項目は男女間での差はほぼありませんでした。DVにあたる行為の認識割合は年々高まってき

ておりますので、引き続き若年層への啓発やパネル展等での啓発を実施していきたいと考えております。
つづきまして、問4 ワーク・ライフ・バランスを実現するために、どのようなことを心掛けていますかということで自由記述について、男性からは30件、女性からは52件、全体で82件の意見を頂いております。若い年代は、仕事や家事育児について工夫している、あるいは仕事や家事育児で手一杯の状況、特に女性は育児中心という意見が多くありました。このことから、イクメンなどの男性一方に向けた意識改革だけではなく、共働き世帯向けなど夫婦を対象にした啓発が必要ではないかと考えております。60代から70代の高齢者層は、パートナーや地域との関わり方について工夫していることといくことで、ワーク・ライフ・バランスを推進しているという意見がありました。男女共同参画意識に関するアンケート結果については以上です。

【阿部委員長】
アンケートの回収率が18%というのは、有効なデータといえるのかという問題もありますので、できれば３割は欲しいところでしたね。結果なので仕方がありませんが、回答しやすいように項目を減らしたり、ハガキにしたりと工夫はされていたのですがね。

【袴田委員】
DVにあたる行為の認識について、「４ いやがているのに性的な行為を強要する」と「６ 交友関係や電話を細かく監視する」については、男性のほうが認識している割合が高いというのは意外でした。女性のほうが意識していないのか、どんな場合でもではないという優しさからなのか、女性が我慢している部分が垣間みえているように感じました。

【阿部委員長】
おそらく普段、漠然と感じている自分の感覚と違っていたりするのかもしれませんね。

【沼田委員】
アンケートの配布件数について、今回は1000件配布し180件の回収でしたが、前回の平成26年度はどのくらい配布しているのですか。

【事務局（山本主査）】
平成26年度は1100件配布し288件回収しておりまして、回収率は26.2%となっております。

【阿部委員長】
配布数的には大きく変わっていないということですね。
例えば、次回のアンケートの送付数についてですが、1000件のままにするのか、1100件にするのか、あるいは、石狩市の人口推移にあわせて送付数をかえるのかなど検討の余地があるのではないかと思いますが、経過を見るという点では1000件が妥当なのかもしれませんね。

【鎌田委員】
回収率が下がった原因がどこにあったのか、どのように思いますか。

【阿部委員長】
回収率が下がった原因については、誰もが疑問に思うところだと思いますが、原因はわからないと思います。

【鎌田委員】
例えば今回の回答はハガキにしたということでしたので、封書で回答をしたほうが、秘密が守られるという感覚や、封書で回答するほうが安心感があるのではないかと思いました。

【阿部委員長】
鎌田委員がおっしゃるような面もあるかもしれませんね。あとは、封書のほうが忘れないで出さなければという意識になるのかもしれませんね。ハガキだと、どこかにまぎれてしまってそのまま出さないということもあるかもしれません。ハガキは返しやすい媒体だとは思いますが、検討の余地はあるかもしれませんね。

【事務局（田村課長）】
ハガキのほうが不安、封書のほうが安心感があり返信しやすいというのが一般的な感覚であるのであれば、十分な検討の余地はあると思いますし、やってみる価値がないとはいえないと思います。前回は実際に封書での回答でした。

【阿部委員長】
なぜ下がったのかという理由はわかりませんが、封書に戻すということも考えられるということですね。

【事務局（田村課長）】
検討します。

【沼田委員】
やってみなければ分からない部分もあるかと思いますが、20 代など若い世代の回収率が低いので、封書やハガキでの回答を求めるのと同時に、スマホやウェブでの回答方法もあると、若い方は書くというよりも打つというほうが、馴染みがあるのではないかと思います。

【阿部委員長】
QR コードをつけ、市役所のホームページで回答するとしたら、面倒がらずに回答してくれるかもしれませんね。我々の世代は、スマホというのは難しいですが、書いて封書で回答するというよりも、ネットで打って回答するというほうが楽な人はいると思います。ただし、ネットでの回答の場合は一度入力すると二度目は回答できないというようにしなければいけませんね。あとは入力した人が特定されないような配慮も必要ですね。
封書だけ、ハガキだけではなく、スマホやパソコンでアンケートに答えられるほうが回収率は上がる確率は高いと思います。

【伊藤委員】

抽出した方にアンケートを送るということを、広報などに載せたりはしているのでしょうか。

【事務局（田村課長）】
送付が 1000 件で、結果も公開などしておりませんので、送った方のみにお知らせしております。

【伊藤委員】
例えば、今、私は委員をやっておりますので、抽出された 1000 人の中にあたれば、あのアンケートが私のところにきたのだと、何の不思議もなく使命感で回答すると思うのですが、それが、生活の中で何も意識していない人のところに届いたら、すごく戸惑うのでないかと思います。市役所からのお知らせだと分かるので怪しいとは思わないと思うのですが、なぜ自分なのかと驚かれて、内容は難しくて、いい答えを書かなくてはと思うと、不謹慎ですが自分一人ぐらい答えなくても、と思ってしまうのではないかと思います。
予算がかかることだと思いますが、２倍ぐらい、2000 人に送付するとか、広報に「この期間に、抽出された方にアンケートを送ります。是非、忌憚なくご意見をお願いします」など、お知らせしてからアンケートが来ると、市民の一人としてわからなくても書こうという気持ちになるのではないかと思いました。それでどのぐらい回収率が上がるかはわかりませんが、一つ書こうという意識が上がるのではないかと思います。

【阿部委員】
可能性としてはありますね。

【事務局（田村課長）】
事前周知については検討させていただきます。封筒のほうにも、今回はお名前だけ表示して送付いたしましたので、男女共同参画アンケート在中と見てどういった内容なのか分かるように表示して送るなどの工夫をしていきたいと思います。

【阿部委員長】
アンケート在中、無作為抽出で送付しています。とあると偶然送付されてきたんだと分かりますよね。他に何かありますか。なければ、報告事項 3 の第 3 次石狩市男女共同参画計画成果指標進捗状況について事務局からお願いします。

【事務局（山本主査）】
報告事項 3 の第 3 次石狩市男女共同参画計画成果指標進捗状況について説明いたします。資料 3 をご覧下さい。Ⅰの「男女共同参画」という用語の周知度、Ⅱ-3 の「ワーク・ライフ・バランス」という用語の周知度、Ⅲの DV にあたる行為を認識している市民の割合については、さきほど報告したとおりとなります。
Ⅱ-1 市の審議会等委員に占める女性の割合について説明いたします。平成 26 年度から平成 28 年度までの 3 ヵ年の経過から、目標値の 40%達成までもう一息の状況なので、「公募における女性の積極的な選考についての協力依頼」「学識経験者や各種団体に所属している女性の人材リストの庁内周知」を引き続き実施していきたいと考えております。
Ⅱ-2 市役所の管理・監督職（主査職以上）に占める女性の割合について説明いたします。平成 26 年

度から平成 28 年度までの 3 ヵ年の経過から、目標値の 20%に向け少しずつ上昇しております。現在40 歳以下の職員の男女比がほぼ半々のため、今いる女性職員数を維持したまま経過していくと目標値に近づいていく予定ですので「人事異動方針での周知」を引き続き実施していきたいと考えております。
参考に他自治体の女性管理職の割合を掲載しております。残念ながら石狩市は石狩管内では一番低い状況になっております。報告事項 3 については以上となります。

【阿部委員長】
ワーク・ライフ・バランスの周知度が残念ですね。また、40 歳以下の職員の男女比が半々ということですので、このまま女性が辞めることなく推移していけばいいですね。今後も採用に当たっては、男女比を考慮していくといいですね。
他になにかありませんか。なければ協議事項に移ります。事務局お願いします。

【事務局（山本主査)】
皆様に協議していただきたい内容は 2 点あります。1 つ目は平成 29 年度については、先ほど説明しました資料 1 の実施事業をベースに取り組んで行きたいと考えておりますが、成果指標の意識に関する項目がまだまだ低い状況となっておりますので、パネル展などの啓発をする際に委員の皆様にご協力いただきながら、啓発を実施していきたいと考えておりますので、ご協力いただける内容がございましたらご協議頂ければと思います。
ちなみに、平成 28 年度につきましては、デート DV 講座において藤女子大学、石狩南高校に場所の設定ということでご協力いただいておりますし、来年度は伊藤委員が所属している札幌人権擁護委員協議会石狩部会においてデート DV 講座の講師を引き受けていただけると聞いております。
男女共同参画ワークショップでは、講師としまして岡本副委員長が所属しております札幌市男女共同参画センターにご協力いただいております。
DV のパネル展においては鎌田委員の所属している北海道家庭生活カウンセラークラブ石狩地区にご協力いただいております。
小中学生向けのリーフレットの作成については、生振小学校校長でもある安部委員と内容等を協議させていただきました。
また、先ほど説明いたしましたロールモデルについても、できれば委員の皆様の中からご協力いただければと思います。これらのご協力をいただきたいというのが協議事項の１点目です。
２点目につきましては、平成 28 年度の実施事業に追加してできる事業がないかなど、皆様にご意見をいただきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

【阿部委員長】
事務局から２点、協議事項の提示がありましたがいかがでしょうか。この点になら協力できるなど、どうでしょうか。

【伊藤委員】
私はこども未来館という児童館に勤務をしております。私が人権擁護委員をしているということもあり、早くからデート DV についてのパンフレットを窓口においてあります。沢山の子ども達が手に取るわけではありませんが、何年か前に可愛らしい冊子が作成されて、それを手に取った小学生がいて、

その時の反応がすごく良くて、子どもでも内容をみて理解することができたので、是非今後もこども未来館のほうに周知のパンフレットなどを設置していきたいと考えております。内容はわからなくても子どもの頃から DV という言葉を目にする機会を増やすなどしていければと考えておりますので、子どもの場所と思わず、是非、資料やポスターなど設置する場所として利用していただければと思います。

【事務局（山本主査）】
先ほどのアンケート結果から、特に 30 から 39 歳の子育て世代と言われる層の認識が低いと言うこともあり、今日は欠席されていますが PTA の関係で釣本委員もいらっしゃいますので、PTA 向けに周知の場などがあると事務局としてもありがたいと考えています。こういった点であれば協力できるなどご意見をいただければと思います。

【阿部委員長】
何名か近い年代の委員がいらっしゃいますが、PTA の役員をしているなどでもなくていいかと思いますので何かありませんでしょうか。

【沼田委員】
PTA の活動に参加させていただいているのですが、今までの活動の中ではこういったテーマでの活動という事はしたことがありません。ただ、子どもが学校から貰ってきたものというのは目にしますが、それで何か家の中で話すかというと、学校から貰ってきたものということで終わってしまいます。
市の企画でこういった講演がありますと聞くよりも、おそらく学校行事の一環としてこういった講演がありますと言われたほうが、子育て世代と言われる方は壁がなくもうすこし入りやすいのかと思いますし、事務局からあったように、市ではなく PTA の行事だということのほうが参加しやすいのではないかと思います。教育委員会ともう少し連携がとれたらいいのかと思います。

【阿部委員長】
沼田委員のおっしゃるとおり、持ちかけるのは市でいいと思いますが、主催が PTA で市は共催で何かやりませんかというのはいいかもしれませんね。声かけする価値は非常にあると思います。平成 29 年度にできるかどうかわかりませんが、教育委員会と協議などできるといいですね。
今 PTA というのは、PTA 独自の行事を年に数回したりするのでしょうか。

【沼田委員】
私のところはありますね。内容としては、男女共同参画やワーク・ライフ・バランスというようなものではなく、親子で楽しめるようなものになっていますね。なかなか、じっくり考えるような内容を企画するのは難しいです。やはり、難しい内容よりは楽しめるイベントや企画になりますので、PTA だけで企画するとなると、男女共同参画がテーマには上がりづらいですね。

【阿部委員長】
PTA の方が参加しやすいようにと考えると、結果的にワーク・ライフ・バランスの話だったというのでいいのだと思います。最初からワーク・ライフ・バランスと出すと難しそうだったりするかと思いますので、そこには PTA の方の知恵をお借りしたり、企画の段階から入ってもらうといいのかもしれ

ませんね。

【事務局（山本主査）】
入口が男女共同参画やワーク・ライフ・バランスではなく、出口がそうなるような取り組みを市教委やPTAにご協力いただければと思っております。

【阿部委員長】
その他なにかありますでしょうか。

【新田委員】
資料２の自由記載欄について、記載していただいた内容から実践できることがないかと考えてみたのですが、具体的な案ではないのですが、個人の取り組みとしては余暇を利用しリフレッシュできたらというような意見であったり、また、一方でコミュニケーションを取るようにしたり、お互いを尊重したりとつながりに関する記述もあるように思いました。これらの意見をふまえた企画など出来たらいいのかと思いました。

【事務局（田村課長）】
男女共同参画だけではなくコミュニケーションなど付加価値をつけた取り組みについても検討してまいります。

【鎌田委員】
初歩的な話になってしまうかと思いますが、私はワーク・ライフ・バランスという用語がいまいちピンとこないです。今回の周知度においても、減少していますよね。自分にとって、男女共同参画は小さい頃から必要なことだと思いますし、DVやデートDVについても小さい頃からそういった意識を持つということは大切だと思いますのでわかるのですが、数年前からワーク・ライフ・バランスという言葉がでてきた時にすごく違和感を持ちました。ワーク・ライフ・バランスは誰を対象とし、誰に周知したいのか、ワーク・ライフ・バランスというと小さい子は対象外のように思うのですが、どのぐらいの年代の人を対象と考えているのでしょうか。

【阿部委員長】
ワーク・ライフ・バランスについて考える時も、ほかの事を考える時も、おそらくDVと同じく小さい子を対象外とすると、今の社会の過労死は無くならないと思います。つまり、働く世代になって初めてワーク・ライフ・バランスといっても駄目なのだと思います。ワーク・ライフ・バランスを含めて、私は小学生から知るべきだと思います。小学生を対象にそういった内容のワークショップを行うと、自分の親を見て考えることができるのではないかと思います。実際は、ワーク・ライフ・バランスが取れていない人が多いと思いますし、ブラック企業の問題等もあるので、ワーク・ライフ・バランスを周知していかなければならない時代なのだと思います。

【鎌田委員】

いきなりワーク・ライフ・バランスと聞くと何のことなのだろう、とやはり思ってしまいますので、仕事と家庭の調和という日本語があるとそういうことなのかと理解はできると思うのですが。

【岡本副委員長】
アンケートの結果からも男性のほうがワーク・ライフ・バランスについての認識度は高いですよね。日本の企業の中の働き方が長時間労働で経済を支えてきたというかつての社会があって、その中で問題なのは男性の自殺率。それと同時に女性たちが社会参画していこうと思っても、夫は長時間労働で死にそうになっている現状で、自分が社会の中に出て働きたいと考えていても、家庭を運営し子どもの面倒を見るのは自分しかいないので、結局、家庭に縛られる。自分が働きたいと考えても、夫は帰ってこない。そういった状況がありますが、国全体の労働力を考えると、女性にも働いてもらわなければならないし、男性が命を絶つぐらいの長時間労働が恒常的になっているのを改善しなければならない、とうのが根底にあるのではないと考えています。国連委員会からは、日本の長時間労働が恒常的になっているのを改善しなさいという勧告があり、国としても動いているという状況なんだと思います。
言葉としては、やはりワーク・ライフ・バランスということで、日本語で言うと仕事と家庭の両立という言い方になりますね。

【阿部委員長】
カタカナ４文字ぐらいになると覚えやすいのかもしれないですね。

【岡本副委員長】
それでも、男性の認識度が高いということは、しんどいと思っている男性たちが世の中に沢山いて、例えば、子どもと一緒に遊びたい、もっと一緒にいる時間を持ちたいと思っていても、早く帰ることにより会社での立場が悪くなる、競争に勝てない、というような事にさらされているのかも知れませんね。長く働くことが良いことで、短時間で成果を出す人もいますが、長く働くことのほうが評価される日本の社会を改善していかなければいけないのかもしれませんね。男性達も必要に迫られているのではないかと思います。今は雇用状態も不安定ですので、男性も転職など考えられますので、そういった時に妻も働いていると、リスクマネジメントとしていいのかと思います。

【芳賀委員】
私も小さい子どもがいて早く帰りたいと思っているのですが、妻も働いていて、部分休業で１時間早く帰っているのですが、私が仕事の関係でこういった場に参加することも多く、育児は妻に任せきりの部分もあり、私が妻の活躍の場を取ってしまっている部分もあるのかなと思います。そういった悩みというのは持っています。

【事務局（田村課長）】
ワーク・ライフ・バランスというとやはり分かりづらいということと、それぞれの立場もありイメージしにくい事もあると思いますので、お手本となるようなロールモデルの紹介をしていきたいと考えておりますが、協力いただける方を探しきれていな状況ですので、もし、よろしければ委員の中からどなたかモデルになっていただければと考えております。

【袴田委員】
どういうことをするのか分からないとなかなか手があげにくいと思うのですが。具体的にどういったことをするなどはありますか。

【事務局（田村課長）】
例えばですが、家族構成や朝起きてから出勤するまでにどのような事をして、仕事はこのようなことをして、仕事が終わってからはこんなことをして、プライベートや地域活動はこのようなことをしています。というような、ある人の１日を追うというような内容を考えております。仕事も家庭のこともきちんとして、なおかつ自分のやりたいこと、地域活動も出来ているというようなことを紹介したいと考えております。

【阿部委員長】
事務局案の話を聞いて思い浮かんだことなのですが、例えば４人家族の同じ一日をそれぞれ同じ時間に何をしているかというのが見れたら面白いのではないかと思いました。前にもお話ししたかと思いますが、テレビで見たデンマークのドキュメンタリー話で、勤務時間が９時から４時で、毎日ではないと思いますが、夫は４時に退社して下の子どもを保育園に迎えに行き、買い物に行き、家に帰ってきて食事の支度をし、食べれそうなころになって、上の子が帰ってきて、３人が食べ始めた頃に、４時に仕事が終わった後ジムに行っていた妻が帰ってきて、一緒に夕食を食べるというのがあってとても良いなと思いました。
９時から４時までですが２人とも働いているのである程度の所得はあると思うのですが、一方日本は、夫は長時間労働、妻が子育てを終えパートで働いても、デンマークの夫婦２人の所得にはと届かないと思います。どちらが幸せかと考えたら、差は歴然だと私は思います。それをするためにはやはり政府の政策ということになるのかもしれませんが、政府が取り組んで行きませんので難しいですね。
私が時々言っていると思いますが、石狩市が全国に先駆けてワーク・ライフ・バランスのモデル都市になる。そのくらいの気持ちがなければ難しいのではないかと思います。平成 29 年度にすぐということではなく、将来５年、10 年先に目指すものがなければいけないと思います。例えば、ワーク・ライフ・バランスに関するドキュメンタリーやドラマを市民図書館に置いて観てもらうフェスティバルをするなど、文字ではなく観えるもので何かできないかと思っています。例えば、小学校や劇団を巻き込んで創作劇をするなど新しい試みが必要なのではないかと思います。
今までやってきたことを繰り返していっても進んでいかないのではないかと思います。

【事務局（田村課長）】
観て分かるというのは、それを観て影響を受ける方もいるかもしれませんので、ロールモデルとして出していけたらと考えております。

【阿部委員長】
今までのワークショップでロールプレイなども行っていると思うのですが、その中でいい意見がありましたら使っていくこともできると思います。
他に何かご意見はありませんか。実現できないかもしれないことでも、こういうことをしたら楽しいというような意見をいただければ、出来ることがあるかもしれませんよ。どうでしょうか。

【袴田委員】
出来るかどうかわかりませんが、たとえば集まった人でグループ分けをして、ワーク・ライフ・バランスについて話し合ったあと、即興で寸劇をし賞をつけて１位のグループには景品をあげるなど、考える機会にもなるし、ちょっと楽しく後から考えるとそういうことかとわかるようなことが出来ればいいのかなと思いました。

【阿部委員長】
口コミで広がっていくような企画ができればいいですよね。

【岡本副委員長】
今は、仕事と家庭をバランスよく夫婦で出来ているというロールモデルを探しているのだと思いますが、この委員の中で誰かロールモデルになってくれる人はいないかということなんですね。

【事務局（田村課長）】
出来ればお願いしたいと考えております。

【袴田委員】
どういう媒体で紹介するのか、名前はイニシャルでいいのか、個人が特定されるのは嫌だなどあると思うのですがそれについてはどのように考えていますか。

【事務局（山本主査）】
もちろん個人情報にもなりますので、その点は十分配慮していきますし、方法についてはご協力していただける方と協議をさせていただいてと考えています。

【袴田委員】
写真なども掲載されるのですか。

【事務局（山本主査）】
ロールモデルですので写真なども掲載したいと考えています。

【岡本副委員長】
お子さんの顔は載らないまでも、ご夫婦の写真は乗るかもしれないということでしょうか。

【事務局（田村課長）】
身近な人が掲載されていることにより、広がるということも考えています。

【袴田委員】
例えばですが、役を演じるということであればいいのかもしれませんが、自分の生活が掲載されるというのには抵抗感があります。

【岡本副委員長】
札幌市は広いですし、そんなに知り合いの目に触れる確率も低いというのもあり、いいですよといってくれる場合が多いですね。石狩市の中だといろいろな人の目に触れて恥ずかしいという気持ちの方もいらっしゃいますよね。

【阿部委員長】
札幌市と比べると人口の差もありますからね。
事務局と何名か集まって、実際の誰かの話ではなく、作ったものを演じるということであればやりやすいのかもしれませんね。100％本物だとやりにくい部分もありますよね。

【事務局（田村課長）】
希望としましては、作り上げられたものではなく、実際にワーク・ライフ・バランスを推進している方というところで紹介していくほうが、みなさまに共感されるのではないかと思います。

【岡本副委員長】
漫画とかでも面白いのかなと思います。

【事務局（田村課長）】
出来れば、理想として作られたものよりも、現実のものを紹介したいと考えていますが、委員の皆様からの意見で、ロールモデルを紹介するというのが難しいということがわかりました。ただ、計画でもロールモデルを紹介することとしておりますので、ロールモデルになっていただける方を探していきたいと考えておりますので、今後も検討していきたいと思います。

【岡本副委員長】
やはり、石狩市民がいいということですよね。

【阿部委員長】
できれば石狩市民で、アンケートで意識が低かった 30 代ぐらいの子育て中の方を探しています。

【沼田委員】
他の人が見たときに、個人が特定されるということが抵抗感のあるところなのかなと思います。実名で、自分の写真で、自分の生活を載せるというのはハードルが高いのかなと思います。

【阿部委員長】
事務局としてはどのようなやり方を考えているのですか。

【事務局（田村課長）】
周知方法としては、市ホームページや広報に載せる、パネル展の時に展示するということを考えています。数年前になるのですが、女性職場といわれている保育士さんの中の男性保育士さんを紹介したり、消防士さんで女性の方を紹介させていただいたり、実際に石狩市内で働いている方を取り上げたことなどもありましたので、イメージとしてはそういった内容を考えており、作り上げられた何かを

演じるのではなく実際にいる方を人の目に触れるところで紹介したいと考えております。

【阿部委員長】
今日中に決定するということではなくてもいいのですね。

【事務局（田村課長）】
持ち帰らせていただき、個別に交渉したいと考えております。ロールモデルの紹介をすることを考えているということと、快くご協力頂ければというところです。

【阿部委員長】
ご協力いただける方はご協力ください。また、アイディアなど浮かびましたら事務局までお知らせ頂ければと思います。それでは、協議事項については以上となります。
その他、事務局より事務連絡などありましたらお願いいたします。

【事務局（山本主査）】
ご協議いただきありがとうございます。平成 28 年度の男女共同参画推進委員会は本日で最後となります。次は平成 29 年度となります。日程については、近くなりましたら調整させていただきます。先ほど伊藤委員からご意見いただいた、こども未来館あいぽーとでの周知につきましては平成 29 年度を待たずに出来ることですので、すぐにでも取り組んで行きたいと思います。是非よろしくお願いいたします。学校、教育委員会、PTA の件につきましては来年度から取り組んでいきたいと考えております。それ以外のご意見につきましても、計画年度が終わるまでに精査して検討していきたいと考えておりますので是非ご協力ください。

◇閉　会
【阿部委員長】
以上を持ちまして、平成 28 年度第 2 回石狩市男女共同参画推進委員会を終了します。
長時間にわたってご議論いただき、ありがとうございました。

平成 29 年 3 月 8 日議事録確定

石狩市男女共同参画推進委員会

委員長　　阿部　包